



図書館だより

Shizuoka Institute of Science and Technology Library

TOPICS

1. 「おしえて！LGBT パネル展」開催 - まずは知ることからはじめてみませんか？ -



本展示は、LGBT や性の多様性について理解を深めることを目的に、静岡県および県男女共同参画センター交流会議主催により、県内11か所の図書館を巡回して開催しているパネル展です。

本学も巡回パネル展の会場として参加し、1/9～1/30の期間中、参考図書を紹介とともに、わかりやすく説明したパネルの展示やリーフレットの配布を行いました。パネル展の終了後も、書籍やリーフレットは継続して展示・配布をしていますので、ぜひご覧ください。

<展示図書> 「10代のうちに考えておきたいジェンダーの話」「マンガでわかるLGBTQ+」「ジェンダーフリーの生き方・働き方ガイドブック」など

2. 図書館の冬のイベントを開催しました！

12月17日～23日、館内で冬のイベントを開催しました。

図書館入口付近には、学生と一緒に飾りつけをしたクリスマスツリーを設置。昼休みにクリスマスや冬にちなんだ音楽を流すなど、図書館内が季節を感じられる雰囲気となりました。AVコーナーでは映画上映会を行い、お昼ごはんを食べたり、ホットドリンクを飲みながらくつろげる空間を提供しました。

<上映映画> 「アニメはたらく細胞!!」「絶景のかなたへ - そこにある奇跡-」「はやぶさ2の記録」「世界の建築遺産」「皇帝ペンギン-ただいま-」



3. コンシェルジュ選書図書を展示中

図書館コンシェルジュ学生による後期の活動として、個別学習相談や各種相談会・講座（資格取得に関する講座、Pythonを使った講座など）の開催、選書などを行いました。

展示架「コンシェルジュが選んだ本」のコーナーには、紹介のために手作りしたPOPを添えて、学生目線で選んだ本21冊を展示しています。Web本棚ブログ「SIST図書館コンシェルジュの本棚」でも学生のコメント付きで紹介していますので、ぜひご覧ください。

⇒ p.4 に関連記事



4. 大学関連の書籍のご紹介

『全国 飛行機めぐり』

チャーリィ古庄（監修） ジー・ビー

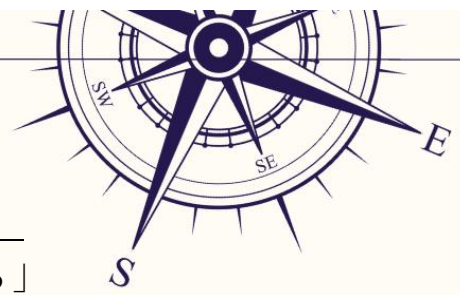
2024年10月刊

所在：西閲覧室 687/Z3

飛行機を「学ぶ」の章で、「④学校法人静岡理科大学 静岡航空資料館」を紹介！

空港、博物館、飛行機ホテル、ショップなど、74の飛行機スポットを「撮る」「学ぶ」「体験する」「楽しむ」の章に分けて紹介したガイドブックです。県内では、富士山静岡空港や航空自衛隊浜松広報館エアパークなども紹介されています。飛行機好きの方にはワクワクの一冊です。

読書への羅針盤



松本 直己先生 先生 (教職支援室) に聞く

「理想を持ち、主体的に行動する力を育てる」

今回は、教育支援室の松本直己先生にお話を伺いました。先生は学生の教員免許取得の支援や教職課程全般に関わる指導を担当されています。地元静岡に戻る際に大学院で学んだことを活かせる仕事に就きたいと考え、教員の道を選び 27 歳から県立高校で教鞭をとられていたそうです。高校教員時代には生徒と触れ合う中で、予想外の出来事も多く、それなりの苦労もありましたが、やりがいや充実感を得られたとのこと。現在は、教員としての充実感を味わえる若者を育てたいという思いで、大学で教職の指導にあたっています。

そんな松本先生は、幼少期には体を動かすことが好きな活発な子供でありながら、本を読むのも好きだったそうです。『漫画日本の歴史』をはじめ、『エルマーとりゅう』や『やかまし村の子どもたち』など海外が舞台のファンタジー作品にも親しみ、日本と海外の違いに触れて憧れを抱いたと語ってくださいました。学生へのおすすめの本について尋ねると、特に特定の本を挙げることはせず、「読書は人柄を映すもので、どんなきっかけでも良い。本との“出会い”を大切に、自分で選んで読んでほしい」と仰っていました。そして、松本先生が今まで読んできた本の中で繰り返し読み、その都度新しい発見がある印象深い一冊の本を紹介してくれました。それはトーマス・マンの『魔の山』です。この本は先生

が大学 2 年生の頃、政治学の先生から勧められたもので、繰り返し読むたびに新しい発見があり、生き方や死に対する様々な興味に発展していく深い読み方ができる一冊だと仰っていました。

また、休日の過ごし方についても伺いました。先生は外を歩くことが好きで、行先での思いがけない発見を楽しんでいるとのこと。近年は教職関連の本を読むことが多く、楽しみとしての読書の時間が減ってしまったとも話してくださいました。

最後に、本学の学生の印象について伺いました。先生は「真面目で、伸びしろのある学生が多い」というのが印象で「その真面目さを武器にしてほしい」とのこと。一方で、「どうせ」「自分なんか」という否定的な考え方を避け、大学生活を大切に過ごしてほしいと仰っていました。「自分の可能性を活かすのも潰すのも自分次第であり、他人任せにせず主体的に行動することが重要。また、理想を持つことで現実がより鮮明に見えるため、理想と現実を両立させながら努力してほしい」とのことでした。

松本先生、お忙しい中お話を聞かせていただきありがとうございました。

【所在】「筑摩世界文学大系 61 トーマス・マン」
西閲覧室 908 / C44

インタビュー・記事：情報学部 1 年 松原 聡紀

私の選んだ一冊

『不機嫌は罪である』 齋藤孝著

タイトルは非常にインパクトがありますが、読了後には著者の意図が理解できました。本書は心とカラダの両面から「不機嫌」の解消法を教えてください。現在、人間関係などで困っている方は手に取ってみてください。思わぬ収穫があるかもしれません。

(建築学科 4 年 青木ペドロ)

2024 年「秋の読書キャンペーン」コメントカードより
読後コメントの一部を紹介します

『コンビニ人間』 村田沙耶香著

“普通”とはなにか、多様性を受け入れるとはどういうことなのかを考えるきっかけになる本だと思う。

(物質生命科学科 3 年 深澤一花)

『小説 すずめの戸締まり』 新海誠著

「誰にも知られぬまま、誰にも見えないものと戦っている」という言葉が印象に残った。誰にも知られぬ仕事は誰にも感謝されないけど大切だ。私がこうやって何事もなく生きていられるのは、いろいろな仕事がつながっていたり、身近な人や遠くの誰かが必死に努力をしてくれているからかもしれない。(土木工学科 1 年 児玉陽)

本多 明生 先生 (情報デザイン学科) の 一手指南

推薦図書

『月に向かえ！～最新心理学が明かす「アポロ計画」を成し遂げた人たちのマインドセット～』

リチャード・ワイズマン著；本多明生訳 ディスカヴァー・トゥエンティワン

私は、研究の一環として、心理学に関する優れた洋書を翻訳出版する活動にも取り組んでいます。今回私が推薦するのはその活動で手掛けた一冊で、個人的にも大変気に入っている『月に向かえ！』です。

本書では、人類史上最大の偉業とも称される「アポロ計画」の成功とマインドセットとの関係が大変魅力的に説明されています。アポロ計画といえば、白い宇宙服に身を包んだ宇宙飛行士が慎重に月面を歩く姿を連想されるかもしれませんが、本書の主人公は、宇宙飛行士ではなく、宇宙飛行士を地上から見守ってサポートした管制官たちです。

ここで質問をさせていただきますが、皆さんが1960年代初頭に暮らしていて、10年以内に人類を月面に到達させる仕事を任されたとします。それは世界中が注目する国家の威信をかけたプロジェクトです。その肝となる管制室にはどんな人材を採用したいと思いますか？

きっと経験豊富な科学者や有名大学を卒業したエリートを雇いたいと思うはずですが、ところが、驚くべきことに、アポロ計画の管制官にはそのような経歴の持ち主はほとんどいませんでした。アポロ計画の管制官は、慎ましやかな労働者階級の出身で、家族の中で初めて大学に進学した平均年齢26歳の「ふつう」の若者が中心だったのです。それにもかかわ

らず、アポロ計画はどのようにして成功を収めることができたのか、本書は心理学の観点からその謎に迫ります。

著者のリチャード・ワイズマン博士は『運のいい人の法則』(KADOKAWA)や『その科学が成功を決める』(文藝春秋)などのベストセラーでも知られている英国を代表する心理学者です。これらの著作のタイトルから推測できますが、博士は人間や組織の成功を長年研究されてこられた方で、本書の知見は私たちが夢を実現する役に立つと断言しておられます。本書には皆さんと同年代の若者たちが実際に経験したストーリーが紹介されています。ぜひ、本書を手にとって、皆さんの夢の実現に活用してください。

最後になりますが、現在、アポロ計画以来、約半世紀ぶりに人類を月面に送り込んで探査や基地建設などを目指す「アルテミス計画」が進行しています。この計画では日本人宇宙飛行士が初めて月に降り立つ予定です。本書では、アポロ計画を中心に宇宙開発史に関する様々な情報・物語が分かりやすく感動的に紹介されています。本書がアルテミス計画という歴史的なイベントを皆さんが楽しむきっかけにもなればとても嬉しく思います。

【所蔵】展示架 159 / W78

新着図書紹介

ぬくもりの旋律
岡田真理著、河出書房新社

まったく新しいアカデミック・ライティング
の教科書 阿部幸大著、光文社

ロゴのかたち クリエイティブな70の発想法
松永克輝著、エムディエヌコーポレーション

土と生命の46億年史 土と進化の謎に迫る
(ブルーバックス) 藤井一至著、講談社

世界を変える100の技術
日経テクノロジー展望2025 日経BPP編、日経BPP

数学大図鑑 世界を知る新しい教科書
カール・ワルシホカ著、日暮雅通訳、河出書房新社

発信する人のためのメディア・リテラシー
情報の森で豊かに生きる
内田朋子、堤信子著、晶文社

感動する地図帖
世界って面白い！となる100テーマ
イアン・ライト編著、Infographic City図
片山美佳子訳、日経ナショナルジオグラフィック

経験バイアスとときに経験は意思決定の敵となる
エム・ソイヤール、ロビン・M・ホガース著、今西康子
訳、白揚社

エンジニアが一生困らないドキュメント作成
の基本 仲田尚央著、ソシム

新着図書リスト



学生サポーターだより

図書館の学生サポーターとして学習支援活動をしている「図書館コンシェルジュ」の2024年度の活動について報告します。

相談対応

各学科の担当コンシェルジュが、学習や図書館の利用方法などについての質問・相談に“同じ学生の立場”からの助言や指導を行いました。



相談しやすい雰囲気大切にしています

図書館業務補助

返却図書配架や書架整理、図書館ガイダンスでの新入生の資料検索サポート、季節の図書館イベントへの協力など、図書館業務の補助をしました。

広報

活動をより知ってもらうための広報活動として、ポスター作成、広報紙「コンシェルジュニュース」の編集・発行、SNSでの発信をおこないました。

コンシェルジュにインタビュー

Q1：コンシェルジュとして活動してみようと思ったわけは？

図書館について知りたかったのと、困っている人の課題解決に貢献したいと思ったからです

Q2：やりがいを感じたのはどんなとき？

学習相談や講座で困っている学生の課題解決に貢献できた時です。「分かりやすかった」などの感想があったときは特にやりがいを感じましたね

講座やイベントの実施

経験や知識を活かし、プログラミングや専門資格、試験勉強など学習支援のための講座や相談会を企画・実施しました。



学生の興味・関心、役に立つことを講座に

五十嵐洋太さん
(システム工学専攻2年)



Q3：特に印象に残っていることは？

日々の配架の作業で様々な分野の本を目にすることが楽しかったです。また、講義や実験のレポートに必要な参考文献など学生のためになる本の選書も印象に残っています

Q4：メッセージをお願いします！

コンシェルジュ活動を通してより本が好きになりました。また、人を手助けすることの大切さも改めて感じることができました。今後も様々な学生の課題解決に貢献してほしいと思います！

選書

学生目線で学生向けの図書を選書し、展示コーナーやWeb本棚ブログで紹介しています。



[ブログ](#)

LIBRARY CALENDAR

■ 開館時間 9:00~18:00

■ 休館日

📅 2月3日~3月31日までの開館時間 9:00~18:00

📅 大学指定休日のため休館：3月10日, 21日

※開館カレンダーは、状況により変更される場合があります。最新の情報は図書館ウェブサイトをご確認ください。

【編集後記】当館では学術書や教科書、英語多読図書などの電子ブックを提供していますが、袋井市立図書館でも今年1月から電子ブックの利用（電子図書館）が始まり、小説や実用書などを読むことができます。本学の学生・教職員も利用できますので、興味のある方は利用登録をしてみてください。

2月						
日	月	火	水	木	金	土
.	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	.

3月						
日	月	火	水	木	金	土
.	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31

静岡理科大学図書館報 No.81 2025年2月1日発行

編集・発行：静岡理科大学附属図書館 〒437-8555 袋井市豊沢2200-2 E-mail: tosyokan@sist.ac.jp

TEL: 0538-45-0231 FAX: 0538-45-0230 URL: <https://www.sist.ac.jp/lib/>